

10年後の首都圏の医療の姿

～高齢化するまち（都市）における医療とのつきあい方～

日時：平成26年11月23（日） 14時～17時

場所：拓殖大学 文京キャンパスC館 101講義室

主催：颯田医学奨学会

共催：颯田クラブ

後援：文京区



NPO法人「健やかまちづくり」Websiteより

開会挨拶

三代川 正秀 理事

拓殖大学 前副学長・商学部教授 財団法人 颯田医学奨学会 理事

講演

10年後の首都圏医療を俯瞰する

川淵 孝一 先生

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 医療経済学分野教授

10年後の高齢者医療と総合診療

中元 秀友 先生

埼玉医科大学 副院長・総合診療内科教授・颯田クラブ

10年後に救急医療をどう利用するか

鈴川 正之 先生

自治医科大学 救命医学講座教授

10年後の都市計画：健康医療福祉都市構想

酒向 正春 先生

世田谷記念病院 副院長・回復期リハビリテーションセンター長

デンマーク国立オーフス大学 脳神経病態生理学研究所 客員教授

総合討論

司会：市村 恵一 自治医科大学名誉教授、颯田医学奨学会理事
大嶽 浩司 昭和大学 医学部麻酔科教授・颯田クラブ

閉会挨拶

古田 直樹 颯田医学奨学会理事長

総合司会：牧野 友彦 国立感染症研究所・颯田クラブ

公開講座の趣旨

公益財団法人 颯田医学奨学会は颯田クラブ（奨学生OBの会）のご協力を得て、毎年テーマを選び市民の方々を対象として、今日の医療へのより良い理解が得られるための「市民公開講座」を行ってきております。

今回の講座では「10年後の首都圏の医療の姿」というテーマで首都圏での高齢化が進みつつある「まち」における将来の医療の姿を取り上げました。

首都圏では、高齢化する「まち」にも固有の問題がおこっています。地域コミュニティの弱さ、徒歩を必要とするインフラ、忘れ去られる独居の高齢者……。

高齢化する「まち」における医療との関わりかたを、10年後の医療の姿を見据えて四つの切り口からエキスパートにお話しいただきます。医療経済の先陣を切られる川淵先生から将来の首都圏の医療像を俯瞰いただき、総合診療と高齢者医療の観点から中元先生に、続いて救急医療の在り方との関わり方について鈴川先生にお話しいただき、最後にまちづくりと健康の一つの具体的な姿を「NHK プロフェッショナル・仕事の流儀」にご出演されたりハビリ医・酒向先生にお話しいただきます。

世界の先陣を切って高齢化が進む「まち」の課題を新たな切り口で考える本公開講座へ、医療、まちづくり、都市計画、地域ケアにご関心を持つ多くの方々のご来場をお待ち申し上げます。（来場の方々の参加費は無料です。）



〒112-8585 東京都文京区小日向 3-4-14

アクセス：東京メトロ丸の内線「茗荷谷駅」より徒歩5分

丸の内線
茗荷谷駅

お問い合わせ：颯田医学奨学会事務局

Tel & Fax: 03-5689-8995

<http://sattaigaku.or.jp>

sattaigaku@snow.ocn.ne.jp